

常なる磐

つねなる いわ

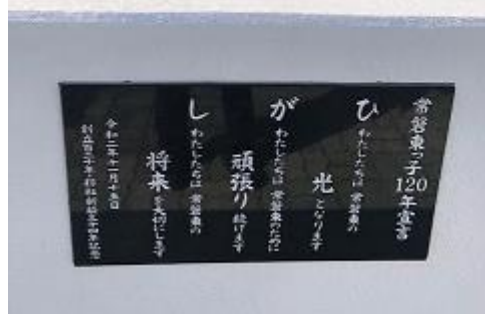
令和3年3月24日(水)その2
令和二年度岡崎市立常磐東小学校修了式

◇ 白木蓮 (ハクモクレン) に想う

正門を抜けた桜階段の「ソメイヨシノ」は開花を待つばかり。その向かい側にひっそりと佇む「白木蓮 (ハクモクレン)」は、一足先に蕾を開き始めた。

白木蓮は落葉樹。幹は白く、冬季は幹枝のみになるため枯れ木のように見えるが、花が添えられることで、その容姿を一変させる。

チューリップのように膨らみのある白花は存在感があり、枝に白い小鳥が留まり、佇んでいるようにも見える。



花言葉は「崇高」。
なるほど、ぴったりである。

品があり、そのうえ趣を感じさせるのは、向かい側の桜との共通点によるものだろうか。

枝に葉を備えてから花が咲くのではなく、葉をつけるよりも先に花が咲く。よって、見事に花が視界に飛び込んでくるのだ。

花開く前の蕾の時はどうかといえは、やはり、蕾の存在を邪魔しない葉がないため、日に日に膨らみ、開花に備える蕾の状態をはっきり確認することができる。

蕾の状態を確認できるからこそ、開花の趣を醸し出すのだろう。

冬の間ため込んだエネルギー（養分）を、開花に向けて一気に注ぐのが、桜階段をはさむ「白木蓮」と「ソメイヨシノ（桜）」。

開花に向けたその様子は、まさに「全集中」。

「花も咲かない寒い日は、下へ下へと根を伸ばせ」とは、よく言ったもので、人の目に見えない地中の根があってこそその開花に向けた「全集中」なのである。

冒頭で、「白木蓮」を「枯れ木」と喩えたが、目に見える部分は枯れたように見えても、目に見えない地中の根はしっかり、そして着実に成長していた証だ。

春と夏を経て、秋に至るまでの期間、白木蓮は、開花に葉の繁茂、結実と異なる形で成長を見せる。しかし、「全集中」に備える冬季の地道な生長こそ大事なのである。

登校時と下校時に児童が必ず通る桜階段。

校門からつながる桜階段に「白木蓮」と「ソメイヨシノ」が並ぶのは、結果が出ずとも地道に努力することの大切さを伝えるためにあるのだと考える。

今日は、令和2年度の修了式。

保護者をはじめ、地域の皆様のご支援により、無事に大きな節目を迎えられることができた。

喜びをかみしめるとともに、ご支援いただいた関係者各位に深く感謝申し上げたい。

開花の先陣を切り、卒業の門出に合わせた「ショウカワザクラ」に続き、春休みを挟んだ4月。桜階段の「ソメイヨシノ」と「白木蓮」が満開の中、
令和3年度が始まる。

